

## 在日外国人を対象としたカウンセリングで用いる面接同意書について\*

金 原 俊 輔\*\*

A consent form for counseling foreign residents in Japan

Shunsuke Kanahara

### キーワード

心理面接同意書、インフォームド・コンセント、異文化間カウンセリング

### 要 旨

本論文は、報告者が作成し、在日外国人のためのカウンセリングで使用している、「心理面接同意書」を紹介するものである。当該同意書には日本語版と英語版とがあり、来談者の権利、カウンセリングの進めかた、カウンセリングにおける禁忌、などについて全 19 項目にわたる解説をしている。1997 年から 2006 年にかけての 9 年間、41 名のクライアントがこの同意書を読み、署名した。これまでのところ、同意書が原因となったトラブルは発生していない。今後、メンタル・ヘルス分野の専門家は、サービスを提供する際の基本として、何らかの同意書を準備しておくべきと思われる。

### はじめに

報告者は 1997 年より 2006 年現在に至るまで、「財団法人・長崎県国際交流協会」のボランティアとして在日外国人を対象に異文化間カウンセリングをおこなっている。日本に居住する外国人は神経症・心身症・うつ病などにかかりやすく、たとえば英語圏から来日した人々の場合はうつ病を発症しがちであるという調査結果が報告されている(丸田・秋山、1992)。上記協会及び報告者は、外国人に精神面の不調が発生した際にケアをする体制が日本では整っていないことから、カウンセリング事業の必要性を見だし、事業を開始した。

外国人に対応するメンタル・ヘルスの専門家の基本的な姿勢として、インフォームド・コンセントの使用が求められる(大西、1999)。入院手続きなどで問題が起こることがあるからである。報告者も、在日外国人へカウンセリングを実施する

にあたり、カウンセリングの内容や来談者の権利などについて説明をおこない理解を取るべきと考えた。本報告は、それによって作成され、現在、協会で用いられている「心理面接同意書」を紹介することを目的としたものである。

### インフォームド・コンセント

インフォームド・コンセントは、「説明と同意」あるいは「説明・納得・同意」と訳されることが多く、治療は患者に説明して本人の理解と承諾を得た上でなければ実施すべきでない、という考えかたに基づいた手続きである(水野、1999)。

インフォームド・コンセントの原則は、1970 年代に、主にアメリカの医療の場で確立された(森岡、1994)。その理由としては、患者へのガンの告知など、現代医学が抱える諸問題が先進的なアメリカで最も鮮明に露呈したから、と考えられている(水野、1999)。説明と同意は、それ以降、ヨーロッパ諸国や日本へも波及した。

日本では、1990 年に日本医師会が『説明と同意について』という報告書をだし、1995 年には厚生省の「インフォームド・コンセントのあり方に関する検討会」が『元気の出るインフォームド・コンセントを目指して』を公表した(押田、2005)。アメリカにおいて患者の人権を尊重する手続きという考えかたが主流であることに對し、日本におけるインフォームド・コンセントは患者と医師の間の信頼関係構築のために必要なものというニュアンスが強い(森岡、1994)。このことに関しては、国内の患者が医師に対して会話やインフォームド・コンセントを通したラポール形成を最も求めているとする、大石(1992)の報告がある。

わが国の精神科医療でも、患者に治療方針を説明し、その要望を聞いて、納得のもとに治療を開始する形式が浸透してきている。反面、患者の症

\* Received January 19, 2006

\*\* 長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 社会福祉学科, Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki Wesleyan University, 1057 Eida, Isahaya, Nagasaki 854-0081, Japan

状が重く、自己判断の能力が著しく欠如している際には、十全のインフォームド・コンセントはなされないケースがある（野村、2002）。

臨床心理学の現場においては、説明をしたり同意を得たりすることが困難な介入法が多いため、行動療法など一部の学派を別にすると、ある個人があるカウンセラーのクライアントになるという簡略な契約だけを交わす方式がメインになっている（Spiegler & Guevremont, 1992）。以上はアメリカの場合であり、日本では、簡略であれなけれ、そうした契約を交わす行為自体が稀であろう。カウンセリングにおけるインフォームド・コンセントは、今のところ普及していない状態なのである。

### 長崎県国際交流協会における来談者

長崎県国際交流協会の来談者は同会会員であることが多いが、そうでない場合もある。会員ではない来談者は人づてにカウンセリング事業が実施されている旨の情報を得て来所に至る。

会員は、人種的にはアジア諸国から来日している東洋人と欧米系の白人とがほぼ同じ割合である。学生が最も多く、英会話教師や企業社員がこれに続いている。性別では、男性が女性の約2倍である。

カウンセリングにおける来談者の訴えは多様で、学校や職場への不適応、孤独、人種差別、日本人異性との交際、本国にいた頃から有していた神経症の悪化、などが特にめだつ。これらの問題が不眠・食欲不振・易怒性・抑うつにつながり、中には自殺を企図している来談者もいる。

カウンセリングは、普通、協会内の一室でおこなっているが、希望がある場合は、来談者が知人と出会う可能性がある同会を避けて報告者の事務所や自宅で面接をしている。その希望は多い。

カウンセリングでは、日本語または英語を用いている。

### 心理面接同意書

参考・1及び参考・2で示したものが、同会で使用されている心理面接同意書である。日本語版と英語版が準備されている。

同意書は、全19項目である。

第1項から第4項にかけて、カウンセリングを実施する前段階の基本的な情報を提供し、第5項と第6項において、実際にどのような形でカウンセリングが進められてゆくかを説明している。

第7項から第13項まで、カウンセリングにお

ける禁忌とその例外について言及した。特に「守秘義務」は、クライアントに完全な理解をしていただきたい事柄である。

第14項から第19項までは、「その他」として、たとえば来談者がカウンセラーに不満をもった場合にはどうすればよいのか、などに関する情報をつけ加えた。

付記・1は、上記不満の具体例である。

付記・2には、項目(e)と(f)以外は、関係機関の了解を得た上で、電話番号を掲載している。

### 同意書の用い方

この心理面接同意書は、初回面接の際に来談者に提示している。自宅へ持ち帰り、読後に署名をして、第2回目の面接時に報告者へ返却する来談者が多く、初回面接のその場で全文を読んで署名をする来談者は少ない。返却されてきたものを報告者がコピーし、1部、本人に渡している。

同意書は、主に、来談者と報告者とが「クライアントとカウンセラーの関係になる」旨を契約する、カウンセリング契約書の役割を果たしている。

何回かの面接を経て問題が明確となり、特定の技法を導入して問題解決を図ろうとする際には、報告者がその技法の説明をおこない、来談者の同意を得ることとしている。このやりとりは、口頭で説明をした後、口頭で同意を得る場合が多い。

### 来談者の反応

9年間のうち、41名の在日外国人が本同意書を読み、署名した。署名を拒否した来談者は皆無であった。人種や国籍の違いに関わりなく、外国人において同意書署名に対する抵抗感や違和感はないように思われる。

署名の際に来談者から質問があったのは第18項が最も多く、6件であった。この際には、同項を削除した上で（つまり、当該来談者に関する発表は一切おこなわないという約束をした上で）、署名を得た。

第5項に関する質問も1件あり、この時は行動療法と認知行動療法についてくわしい説明をおこなった。行動療法は心理学の学習理論を応用した心理療法であり、認知行動療法はその行動療法から派生した、人の思考パターンに焦点をあてる心理療法である。

第13項に関わることとして、報告者と友人になりたいという申し出が1件あったが、それが来談者と報告者のどちらにとってもマイナスにつな

がり得る可能性を説明して、辞退した。

これまでのところ、「付記・2」に書かれている機関へ報告者に関する苦情が持ちこまれて報告者が注意や指導を受けたことはない。報告者が来談者自身から直接受けた苦情は、「英語が堪能ではない」が1件だった。

### 同意書に沿ったカウンセリング

これまでに報告者が経験した説明と同意にまつわる例として、下記のようなものがある。

来日前から人づきあいがうまくゆかず、長いあいだ母国で心理療法を受けたものの変化が起らなかったという30歳代の来談者の場合、報告者が考えかたの癖を変える必要性を説明して同意を得、認知行動療法をおこなった。本人にアルバート・エリスの「REBT（理性感情行動療法）」の入門書（英語原著）を読んでもらったところ、たとえば「人はすべて自分を尊敬しなければならない」といった自分自身の「不合理な信念」に気づき、修正の努力をして、以来、友人たちと気楽に接することができるようになった、という結果に至った。

次の例として、日本人の配偶者をもつ人物が来所し、配偶者が服用している薬物に関する質問をしてきた件があった。報告者は医療行為をおこなわない旨を同意書に基づき説明した。クライアントは了解し、その質問を撤回したが、病院において日本人医師の説明が乏しかった、当該医師の英語が不明瞭だった、と訴えてきた。そこで報告者が病院へ同行し、医師にクライアント・配偶者の前で改めて薬の効果や副作用について説明をもらい、それを通訳した。同クライアントより家庭訪問の依頼もあったので、了解し、自宅を訪問した上で配偶者との定期的な面談をおこなった。

最後に、面接予約のキャンセルを断続的におこなうクライアントがいた。キャンセルは毎回突然であり、連絡がない場合もあった。このかたとは約10回お会いした。職場の人間関係が主な話題で、面接ではご自分が置かれている立場を力を入れてお話しになった。報告者はそれを傾聴し、いくつかのアドバイスをしていた。ある時、キャンセルが3回連続し、そのうちの1回は通知なしのキャンセルだった。3回目のキャンセルのお電話では、また新たな予約を作りたいというご希望を述べられたが、報告者は同意書第16項に則り、当該面談を打ち切った。

### 問題点

面接同意書が原因となって何らかの問題が発生したことはない。しかし、実際に使用してゆく中で、報告者は少なくとも以下の三つの欠点があると考えている。

第一は、書類として長過ぎるという点である。全19項目を読了するには時間がかかる。2回以上の面接をおこなう場合、クライアントに自宅へもち帰って読んでもらうことができるが、1回だけの単発的なカウンセリングである場合は、初回面接時に目を通してもらうことになる。これにより、約1時間の面接時間のうち、10分近くが奪われてしまう。しかも、面接が2回以上続くのか、1回だけで終了するのかは、初回冒頭には判然としていない状態がほとんどであり、そのため、同意書をクライアントに示しそびれて面談が終了した例がいくつかある。

第二に、本同意書は日本語と英語のみで準備されているという問題点がある。実際にはそのどちらをも母国語としていないクライアントのほうが多く、結果的に、同意書を読めず、その意味を汲み取れない人がめずらしくない。東洋の各国語や英語以外のヨーロッパ語の同意書も用意しておく必要性が高い。

第三に、クライアントの中には、初回面接の開始直後から一気にご自身の状況を語りたがるタイプがいらっしゃる。これは特に外国人だけに見られる傾向ではないのだが、報告者が会える外国人のうち、英語を話す外国人の場合は、「英語で話し合うことができる」という一種の安堵感・解放感が起こり、そうなるのかもしれない。上記のような方々には、冒頭に同意書を示すことが、ご自分たちの相談意欲を低減させるふるまいとしてマイナスに映ってしまう可能性があるだろう。

以上、本同意書の限界について述べた。

### おわりに

報告者が長崎県国際交流協会で使用している心理面接同意書を紹介した。同意書は未整備な点を有していると考えられ、継続的に改訂してゆかねばならないだろう。

わが国のメンタル・ヘルスのサービス機関は、サービスを受ける人々の「(情報への) 接近権」や「自己決定権」を尊重すべきであり、サービスを与える側に係る「伝える義務」を履行すべきでもある(佐藤、1992)。来談者の権利及びサービス提供者の義務の問題は、日本の国際交流の活発

化に伴って、在日外国人が来談者である場合に、今後、一層重要性を増してくると予想される。

#### 参考文献

- ・大石光雄（1992）、「心療内科とインフォームド・コンセント：言葉と対話の側面から」（収録／中川哲也・末松弘行『モダンクリニカルポイント 心療内科』）、金原出版、P. 10～11。
- ・大西守（1998）、「海外移住者にみられるところの問題」（収録／大塚俊男・上林靖子・福井進・丸山晋『こころの健康百科』）、弘文堂、P. 163～167。
- ・押田茂實（2005）、『医療事故：知っておきたい実情と問題点』、祥伝社。
- ・佐藤忠司（1992）、「倫理」（収録／氏原寛・他『心理臨床大事典』）、培風館、P. 29～33。
- ・Spiegler, M.D. & Guevremont, D.C.（1992）, Contemporary behavior therapy. California: Brooks/Cole.
- ・野村総一郎（2002）、『精神科にできること：脳の医学 心の治療』、講談社現代新書。
- ・丸田伯子・秋山剛（1992）、「文化と精神症状」（収録／氏原寛・他『心理臨床大事典』）、培風館、P. 1221～1224。
- ・水野肇（1999）、『インフォームド・コンセント：医療現場における説明と同意』、中公新書。
- ・森岡恭彦（1994）、『インフォームド・コンセント』、NHKブックス。

#### 参考・1 心理面接同意書

私は以下の説明を読み、同意しました。理解できなかったり同意しなかった事項は、カウンセラーである金原俊輔（以下、カウンセラー）と話しあい、説明、修正、または削除をしてもらいました。私は自発的に同カウンセラーのクライアントになります。

住 所 電話番号

氏 名 日 付

#### 同意事項

- 1 カウンセラーは、財団法人・長崎県国際交流協会のボランティアとして、心理面接（以下、面接）をおこなう。
- 2 カウンセラーの自宅電話番号は（095）〇〇〇-〇〇〇〇であり、カウンセラーは、毎日、午前9時から午後9時まで予約などの電話連絡を受けつける。
- 3 カウンセラーの面接は無料である。また、カウンセラーは、面接の対価として私にいかなる物品やサービスも要求しない。
- 4 カウンセラーの面接は、原則として週に1回、毎回約1時間である。
- 5 カウンセラーは、おもに行動療法と認知行動療法の考えかたに基づいて、面接をおこなう。
- 6 カウンセラーが、面接中、特定の技法を用いる時には、口頭または文書で、その目的、技法に関する諸研究の結果、予想される効果、効果があらわれるまでの時間、効果があらわれない可能性、起こり得る副作用、それ以外に考えられる技法、などについての情報を私に与え、当該技法を使用する許可を私から得る。
- 7 カウンセラーは、医療行為をおこなわない。
- 8 カウンセラーには守秘義務があり、面接を通して知り得た私に関わる情報を、私の許可なく他者へ漏らすことはできない。
- 9 カウンセラーは、私が、私自身や他者へ危害を与える明らかな可能性をもつ時には、守秘義務を破る。
- 10 カウンセラーは、カウンセラーが必要と判断し、私が同意した時に、私を他のカウンセラー・ソーシャルワーカー・医師などの専門家へ紹介する。
- 11 カウンセラーと私が、すでに別の状況で人間関係をもっている時（例：教師と学生）、カウンセラーは私をクライアントとして受けつけないことがある。
- 12 カウンセラーは、私が満20歳に達していない時、私との面接の許可を私の保護者（例：親）

に求めることがある。この場合、カウンセラーは、当該保護者へ私に関わる情報を私の許可なく与えることがある。

- 13 カウンセラーは、私と私的・性的な関係をもたない。
- 14 カウンセラーは、特別な事情や私の要望がない限り、面接を短期間（10回～15回）で完了させる努力をする。
- 15 カウンセラーは、私が望む時にいつでも、面接を中止する。
- 16 カウンセラーは、私が連続して3回予約をキャンセルした以後は、新たな面接の予約を受けつけない。
- 17 カウンセラーは、私に関わる記録を自宅で保管する。面接中止／完了後5年が過ぎた時に、カウンセラーはこの記録を焼却する。
- 18 カウンセラーは、私の事例を学会で発表することがある。その時、私や関係者の名前を仮名とし、私や関係者の年齢・身長・体重・家族構成・人種・国籍・宗教・職業・日本滞在年数・日本語会話能力・在住地名・おもなできごとや面接の年月日などについての情報を変更するか記号にする。また、カウンセラーは、可能な時には、私や関係者の性別・症状についての情報も変更する。
- 19 カウンセラーのために、私が精神的・身体的な被害を受けたとき、そのことについて私はカウンセラーと話しあう。カウンセラーとの話しあいに私が満足しなかった場合、私は家族・知人や関係機関に連絡をし、応援を求める。「精神的・身体的な被害」とは「付記・1」に例示されるものだが、これらに限定されない。「関係機関」とは「付記・2」に例示されるものだが、これらに限定されない。

#### 付記・1

(a) 本同意書で同意されたことに対する違約・違反、(b) 症状や問題への不適切な対応、不本意な面接過程や面接結果、(c) 言語的・肉体的な暴力の行使、(d) 私の年齢・性別・職業・婚姻・性的な傾向・信条・宗教・人種・国籍・外見容貌・障害・疾病・経済的状态などに対する差別。

#### 付記・2

- (a) 財団法人・長崎県国際交流協会
- (b) 長崎県臨床心理士会
- (c) 長崎県警察本部・警察総合相談室
- (d) 長崎地方法務局・人権擁護課
- (e) 各大学・短期大学学生課
- (f) 各国総領事館

#### 参考・2 心理面接同意書（英語版）

I have read the following sentences and understood the content. I discussed the parts that I had not understood, or agreed with, with the psychotherapist [therapist], Shunsuke Kanahara, and obtained explanations, amendments, or deletions to my satisfaction. I agree to voluntarily become the therapist's client.

Address

Phone number

Signature

Date

#### Agreements

- 1 The therapist offers psychotherapy as a volunteer of the Foundation of the Nagasaki International Association.
- 2 The therapist's home phone number is: (095)○○-○○○○, and the therapist receives phone calls for making appointments or cancellations from 9:00 AM to 9:00 PM every day.
- 3 All of the psychotherapeutic services that the therapist offers are free of charge. The therapist does not ask for any materials or services in return for psychotherapy.
- 4 The sessions of psychotherapy are generally held for approximately one hour once a week.
- 5 The therapist offers psychotherapy basically according to the theories from behavior therapy and cognitive-behavioral therapy.
- 6 When the therapist uses a certain psychotherapeutic technique, he must obtain my permission for using it after giving me information

- regarding the general efficacy of the technique, the expected outcome, the expected time period of change, the possibility of not having a change, or the possible side effects, as well as alternative techniques, verbally or in a written form.
- 7 The therapist never offers medical services.
- 8 The therapist will keep confidentiality and will never reveal information about me to others which was obtained through psychotherapy without my permission.
- 9 The therapist may reveal some information when I am in impending danger to myself or others.
- 10 The therapist may refer me to other psychotherapists, social workers, doctors, and so forth, when he finds that it is necessary and when I agree with it.
- 11 The therapist may refuse to see me as a client when he and I are already associated (e.g., a teacher and a student).
- 12 The therapist may ask my parents/legal guardians/conservators for permission to conduct psychotherapy with me if I am under 20 years old. In this case, the therapist may reveal some information about me to my parents/legal guardians/conservators without my permission.
- 13 The therapist never has a personal/sexual relationship with me.
- 14 The therapist tries to complete psychotherapy sessions in a brief time period (between 10 and 15 times).
- 15 The therapist will terminate psychotherapy sessions when I require it.
- 16 The therapist may refuse to make new appointments with me after I have cancelled 3 appointments consecutively.
- 17 The therapist will keep a record regarding me in his home. The therapist will burn the record 5 years after the completion/termination of psychotherapy.
- 18 The therapist may discuss my case at academic meetings. At that time, the therapist must make my name and other parties' names anonymous; the therapist must modify or symbolize the ages, heights, weights, family structures, races, nationalities, religions, professions, lengths of stay in Japan, Japanese-speaking abilities, names of cities of residence, incidents, and dates of sessions that identify me and other parties. Furthermore, the therapist must modify the genders and/or symptoms of mine and other parties when possible.
- 19 If I believe that I have been harmed emotionally and/or physically by the therapist, I can discuss the issue with him. If I am dissatisfied with the above discussion, I can ask for help from my family, friends, and/or agencies. The emotional and/or physical harms are listed in Appendix 1. The agencies are listed in Appendix 2.

#### Appendix 1

- (a) The breach of agreement of this form,  
(b) inappropriate intervention process and/or undesirable outcome, (c) verbal and/or physical harassment, (d) discrimination against my gender, profession, marital status, sexual orientation, principles, religion, ethnicity, appearance, disability, disease, financial situation, and so forth.

#### Appendix 2

- (a) The Foundation of Nagasaki International Association  
(b) Nagasaki Clinical Psychologist's Association  
(c) Nagasaki Police Department, Police General Services Room  
(d) Nagasaki Municipal Bureau of Judicial Affairs, The Civil Liberties Section  
(e) Universities/Colleges, Student Affair Services  
(f) Consulate Generals